

6.1.6 景観

1) 囲繞景観

(1) 調査期間

調査の実施期間を表 6.1.6-1 に示した。

表 6.1.6-1 調査期間一覧

地区/季節	春季	夏季	秋季	冬季
G地区	平成30年5月30日	平成30年9月21日	平成30年11月28日	平成31年2月1日
H地区	平成30年5月30日	平成30年9月21日	平成30年11月28日	平成31年2月1日
N-1地区	平成30年5月30日	平成30年9月21日	平成30年11月28日	平成31年2月1日
N-4地区	平成30年5月29日	平成30年7月23日	-	-

(2) 調査方法

調査は評価図書時に実施した囲繞景観の調査地点において写真撮影を行い囲繞景観の状況の変化を把握した。

(3) 調査地点

図 6.1.6-1 ~ 図 6.1.6-4 に示す評価図書における調査地点と同一地点において実施した。

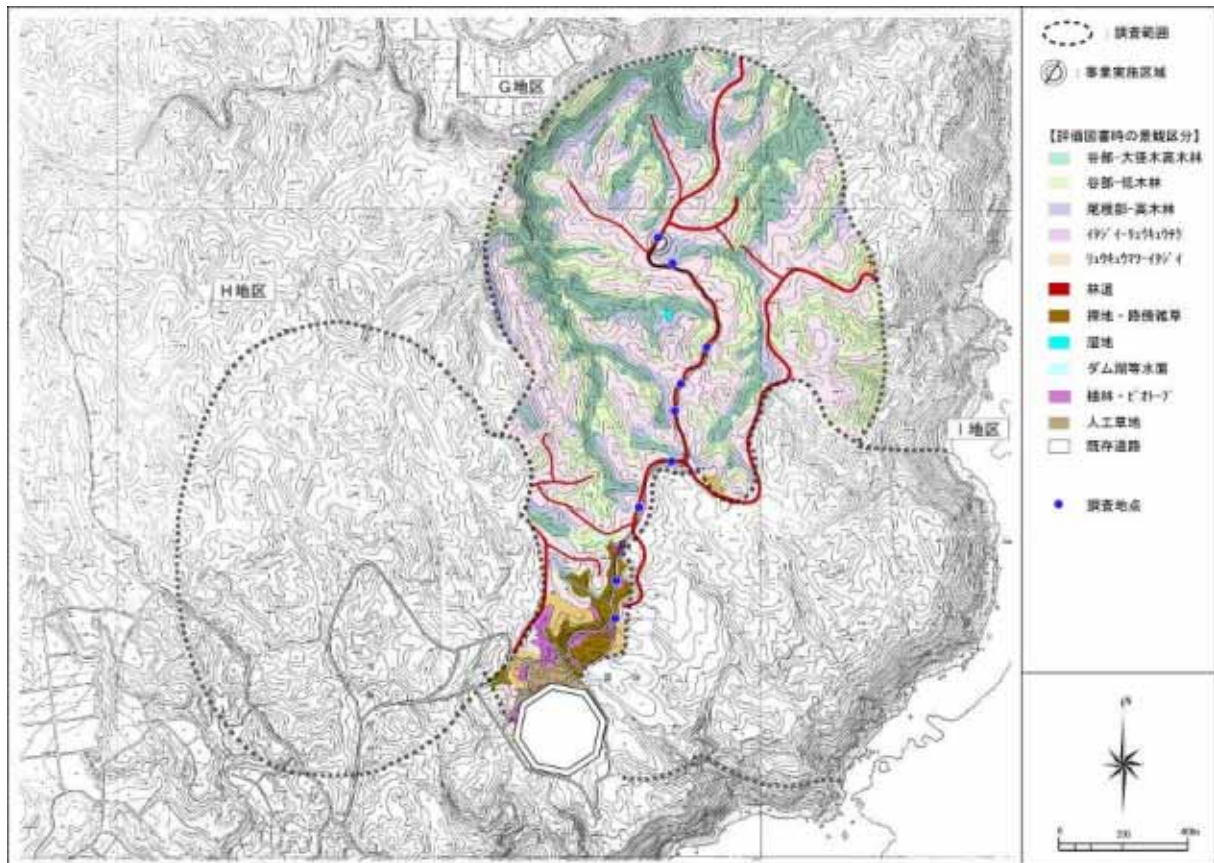


図 6.1.6-1 景観調査の調査地点(G)

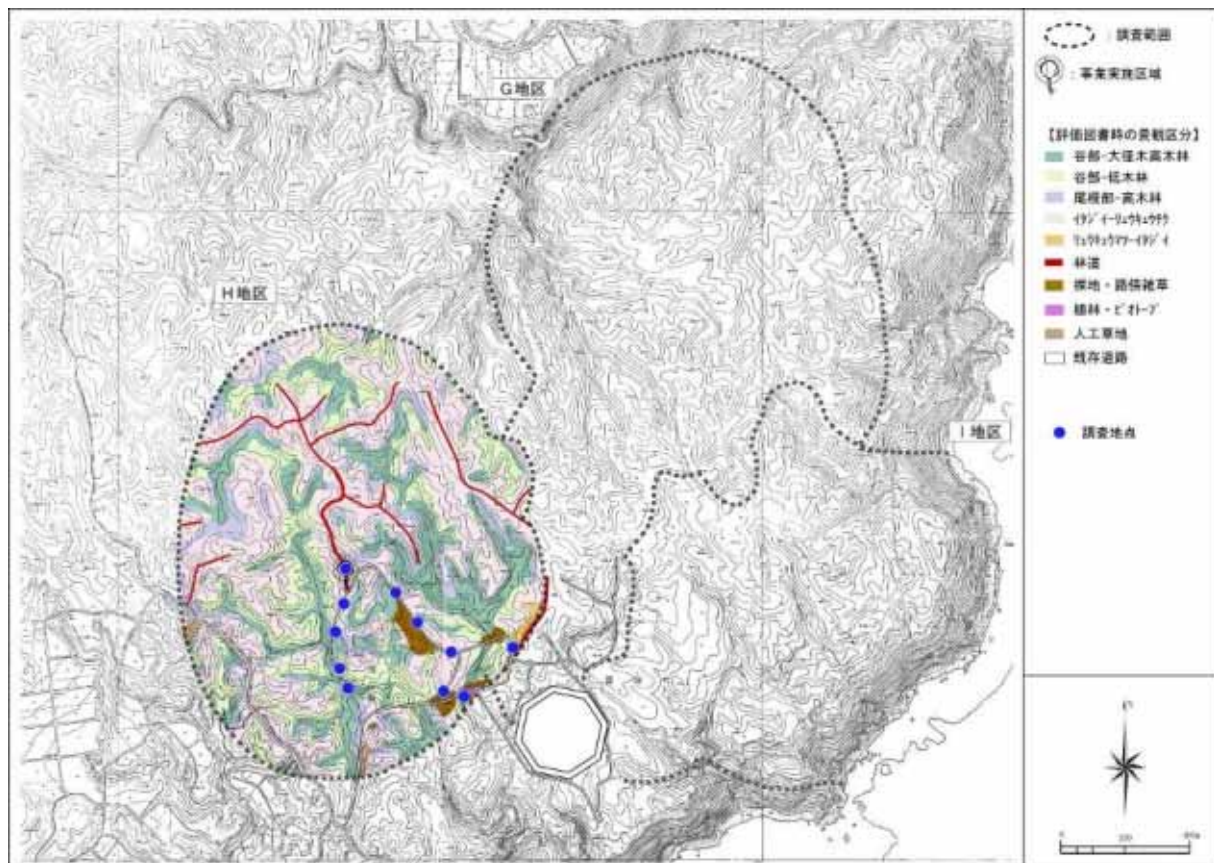


図 6.1.6-2 景観調査の調査地点(H)

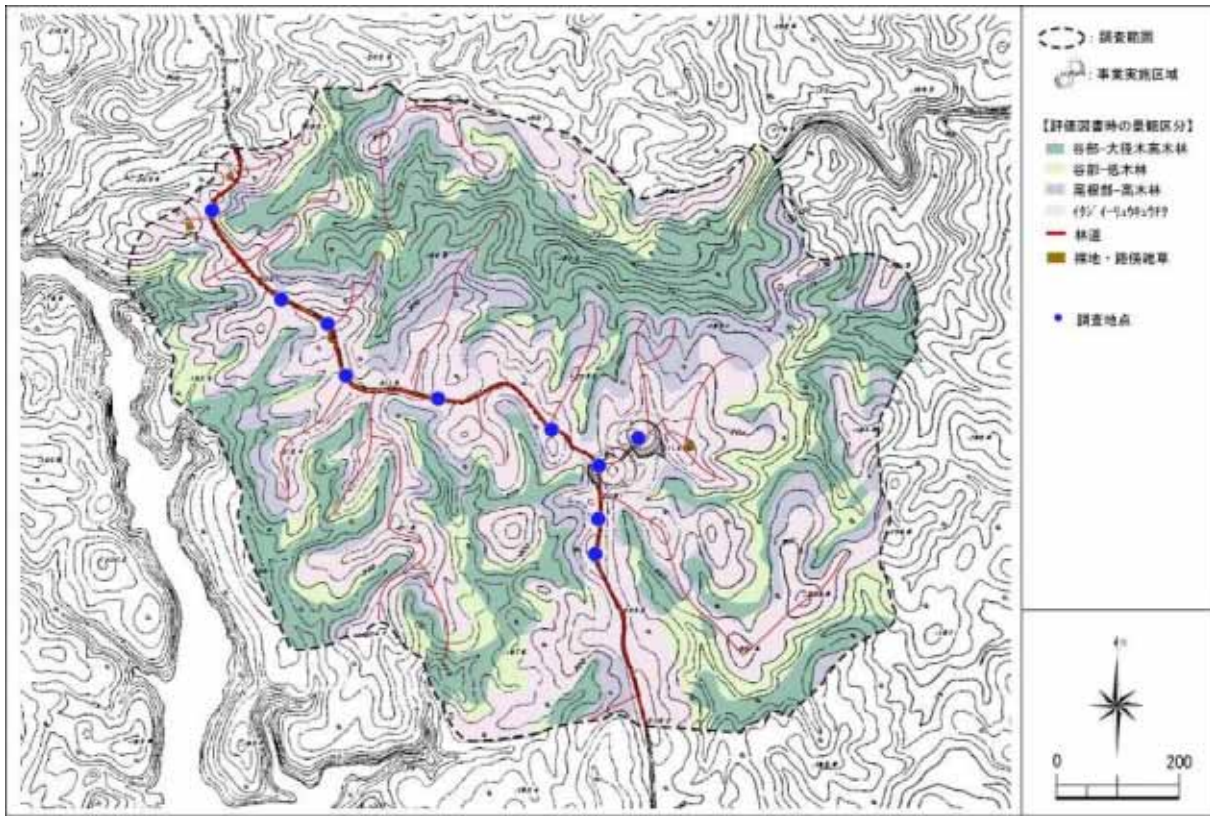


図 6.1.6-3 景観調査の調査地点(N-1)

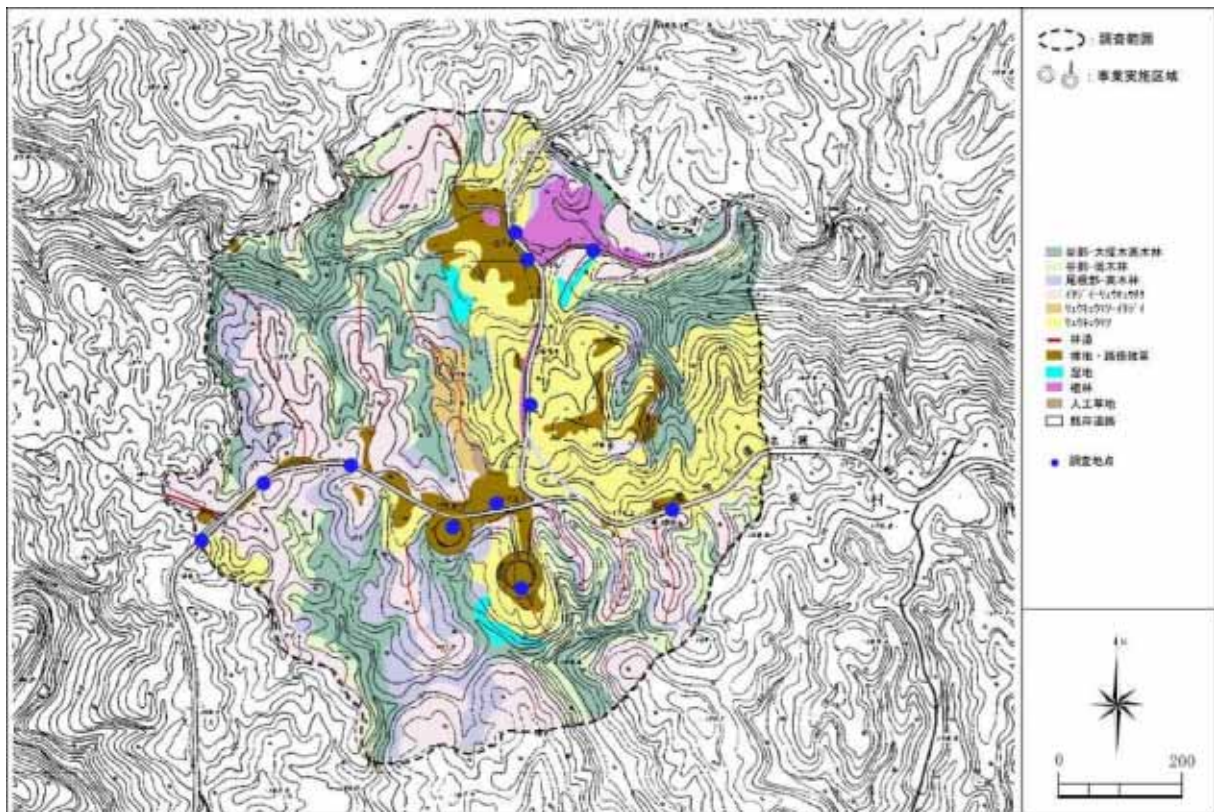


図 6.1.6-4 景観調査の調査地点(N-4)

(4) 調査結果

G 地区は調査地域のほぼ全域が林内であり、徒歩や車両での通行が可能な場所としては既存道路景観区及び林道景観区となっていたことから、主要な眺望点として既存道路景観区及び林道景観区沿いに設定されている。眺望状況としては図 6.1.6-5～図 6.1.6-8 に示すとおり、主に林道沿いに裸地路傍草地景観区が分布し、両側にイタジイ-リュウキュウチク景観区が分布している。着陸帯は平成 28 年 12 月、G 進入路は平成 29 年 9 月に完成しており、イタジイ-リュウキュウチク景観区から裸地路傍草地景観区へと変化していたほか、G 進入路についても平成 29 年 9 月に完成していることから同様に変化している。

H 地区は調査地域のほぼ全域が林内であり、徒歩や車両での通行が可能な場所としては既存道路景観区となっていたことから、主要な眺望点として既存道路景観区沿いに設定されている。眺望状況としては図 6.1.6-9～図 6.1.6-12 に示すとおり、主に既存道路景観区沿いに谷部-大径木高木林やイタジイ-リュウキュウチク景観区が分布している。着陸帯は平成 28 年 12 月に完成しており、イタジイ-リュウキュウチク景観区から裸地路傍草地景観区へと変化していた。作業ヤードについては、南側が種子吹き付けにより裸地路傍草地景観区へと変化しているほか、北側については別事業の作業ヤードとして利用されている。

N-1 地区は調査地域のほぼ全域が林内であり、徒歩や車両での通行が可能な場所としては林道景観区となっていたことから、主要な眺望点として林道景観区沿いに設定されている。眺望状況としては図 6.1.6-13～図 6.1.6-16 に示すとおり、主に林道沿いに裸地路傍草地景観区が分布し、両側にイタジイ-リュウキュウチク景観区が分布している。着陸帯は平成 28 年 12 月に完成しており、イタジイ-リュウキュウチク景観区から裸地路傍草地景観区へと変化していた。また、既存道路の一部区間については別事業の工事により沿道の伐採準備のための除草などが行われていた。

N-4 地区は調査地域のほぼ全域が林内でパッチ状に裸地が分布しており、既存道路が徒歩や車両での通行が可能なことから、主要な眺望点として既存道路景観区沿いに設定されている。眺望状況の概況としては、図 6.1.6-17、図 6.1.6-18 に示すとおり、主に既存道路景観区沿いにリュウキュウマツ景観区や裸地・路傍雑草景観区が分布する状況であり、谷部-大径木高木林、谷部-低木林については調査地点からの眺望はできない。季節別の調査地点からの眺めの状況は平成 27 年に N-4.1、N-4.2 が完成した後からは景観区に変化は生じておらず、眺めの状況に大きな変化はないと考えられる。

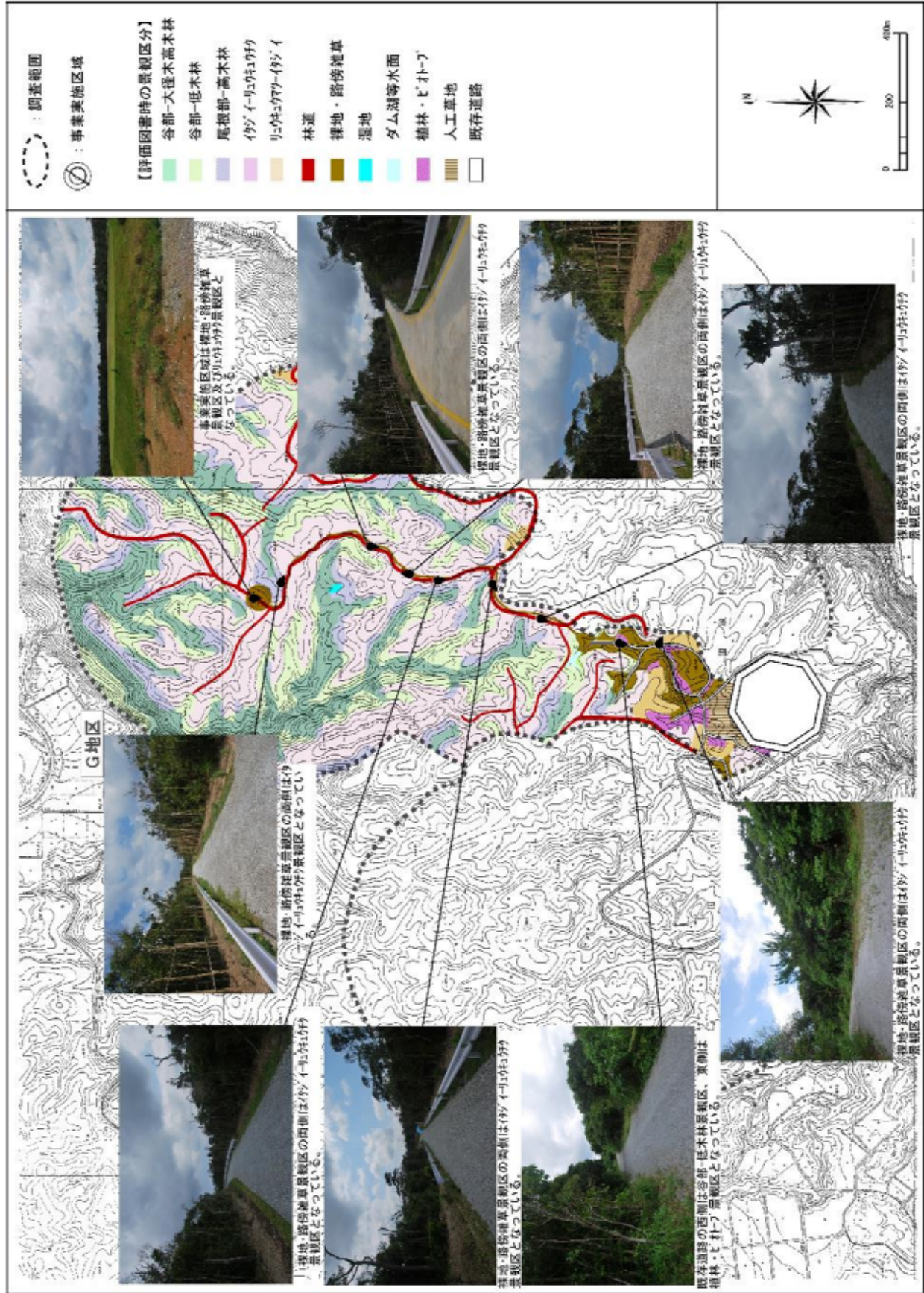


図 6.1.6-5 G地区における眺めの状況（平成30年：春季）

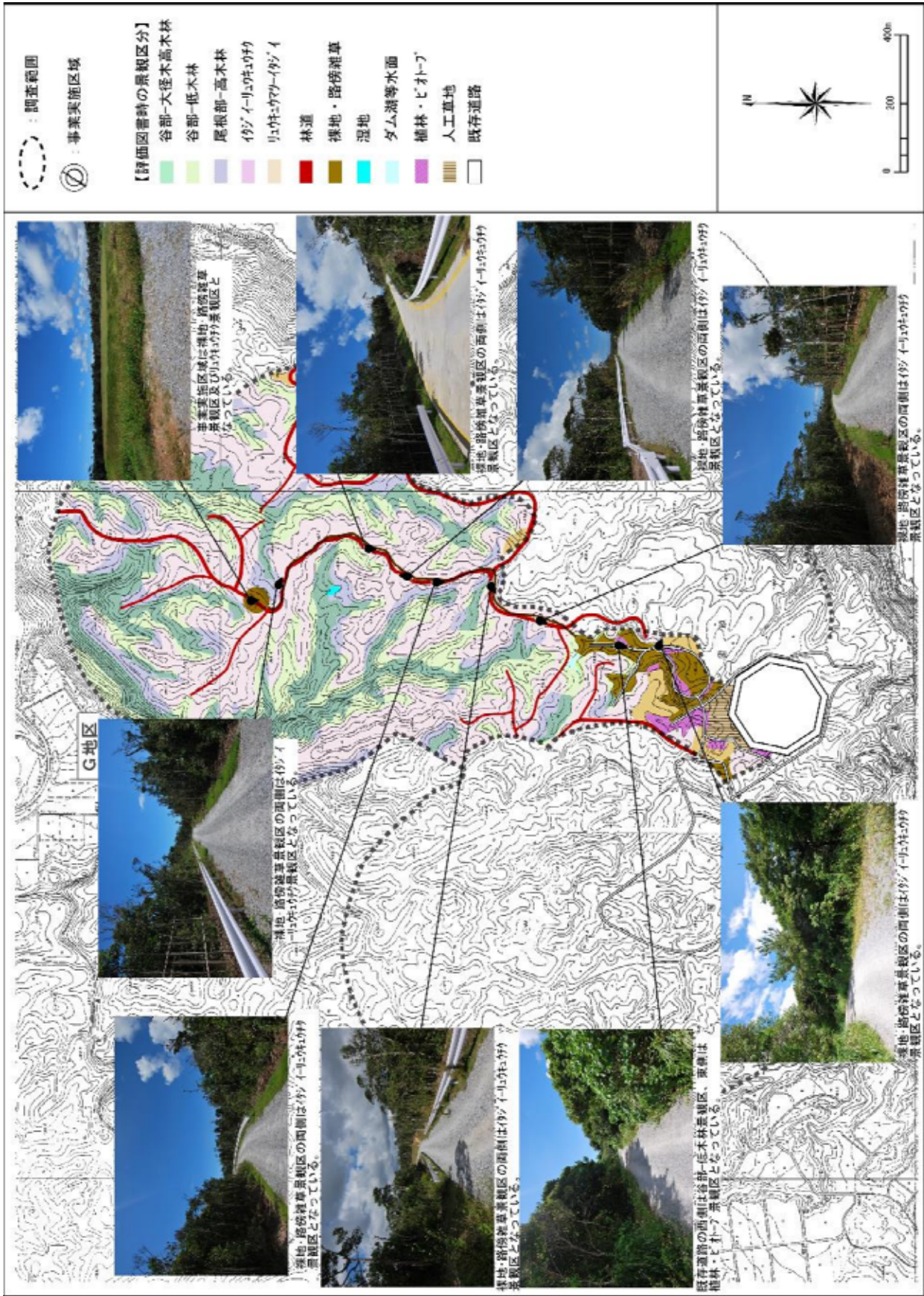


図 6.1.6-6 G地区における眺めの状況（平成30年：夏季）

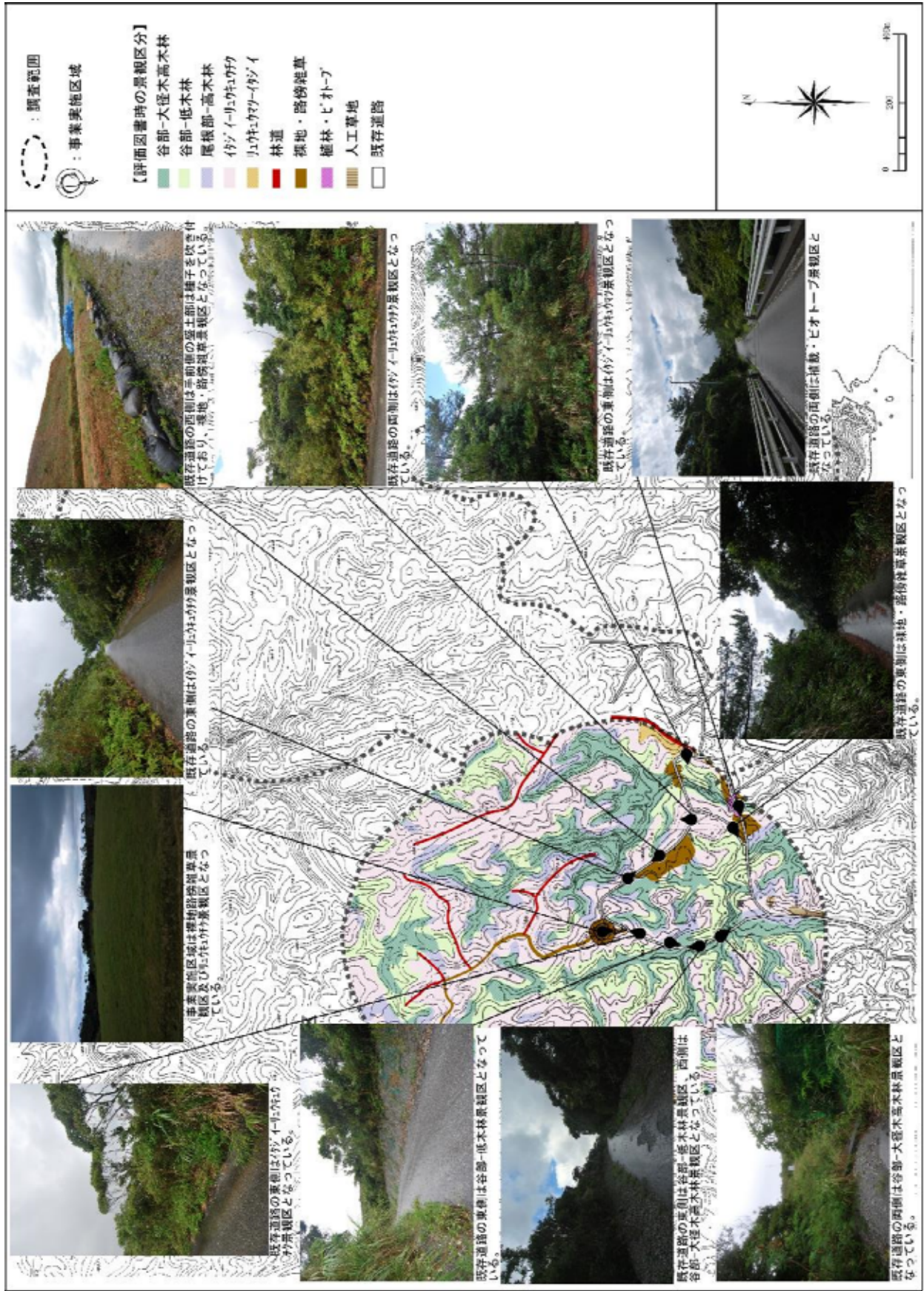


図 6.1.6-10 H 地区における眺めの状況（平成 30 年：夏季）

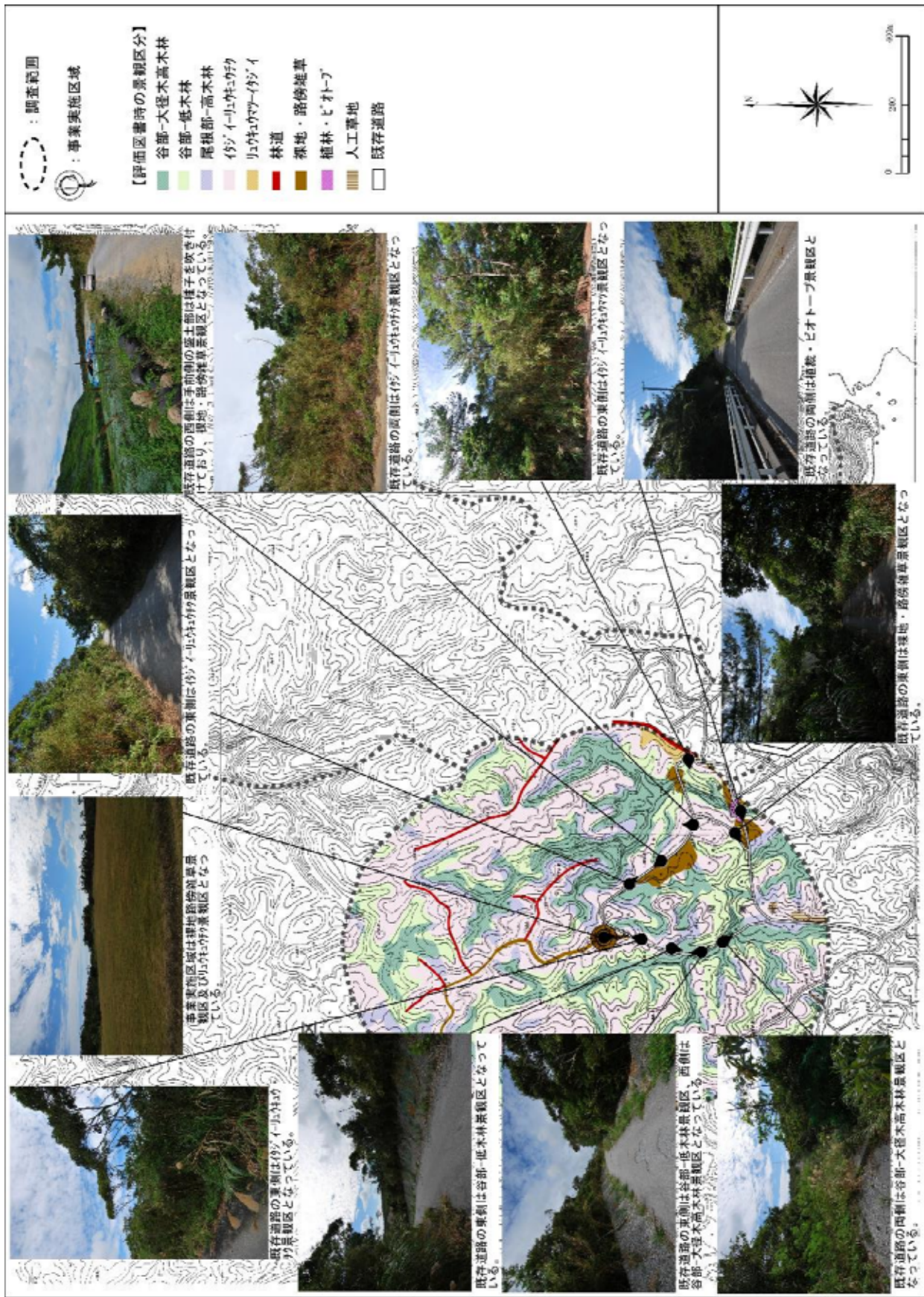


図 6.1.6-11 H 地区における眺めの状況（平成 30 年：秋季）